



情熱 × 若者

ミハラのチカラ

STORY 34

小佐木島でしか描けない絵を描きたい

公益財団法人ポエック里海財団学芸員

日本画家

寺川成美さん
てらかわなるみ

三原港の南東に浮かび、豊かな自然が残る小佐木島。光が差し込むギャラリーで学芸員として働く傍ら、自然を題材に日本画を描いているのは寺川成美さんです。

兵庫県に生まれ、幼少の頃から絵を描くのが好きだった寺川さんは高校卒業後に芸術系の大学、大学院へと進み、京都で日本画を6年間学びました。

小佐木島と出会ったのは大学院2年生の時。三原市の古民家で襖に絵を描く企画に参加し、島を訪れました。「静かで自然豊かな小佐木島で絵を



▲海が見える部屋で作品作りに没頭しています

描きながら暮らしたい」と思った寺川さんは、芸術による離島の振興などを手掛ける公益財団法人ポエック里海財団が島にギャラリーのある施設を持つていたことを知り、そこでの施設管理を行うことになりました。



卒業後はすぐに島に移住し、施設の掃除をしたり、来館者に絵の説明をしたりしながら絵を描いてきました。学生時代から描き続けている絵のテーマは、山の中をイメージした「誰もいないけど心地いい、いつか帰りたいと思う場所」。町中で描いていた頃に比べて、自然に囲まれた島で描くようになつてから、「想像の世界に実感が伴った」と話します。

※このコーナーでは、スポーツや文化・芸術活動などに情熱を注ぐ若者や子どもたちを紹介します。

朝焼けに染まる三原港

ふたかわよしみ

撮影エピソード 撮影者 二川好美さん

日の出を撮影しに三原港へ。フェリーが入港すると同時に、渡り鳥が飛んでいたのが無我夢中でシャッターを押しました。



●撮影年月 平成31年1月
●撮影場所 三原内港



写真・絵を募集しています

テーマ

～あなたが残したい三原の風景～

応募資格 市内在住・在勤・在学の人

選考 秘書広報課で選考

※応募作品の著作権は市に帰属し、市の公式フェイスブックで紹介させていただく場合があります。

※応募作品は返却しません。

申し込み 郵送またはEメールで写真(L判・データ)か絵(大きさは画用紙A3サイズまで)と①名前②住所・電話番号③撮影・制作日④撮影・題材場所⑤作品名⑥作品エピソード(70字以内)を秘書広報課(〒723-8601港町三丁目5番1号 ☎0848・67・6007 ㊚hishokoho@city.mihara.hiroshima.jp)へ